

# D-1:外部資金の獲得

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 13:50-15:20 中会議室201(2階)

## 研究現場支援者からみた科研費改革2018 —学術研究レベル向上と審査システム—

科研費に関する申請支援については、ここ10年で、申請支援に関する各種ノウハウ本をはじめ、講演会の実施等、各研究機関間での情報交換・ナレッジの蓄積が進んできています。

一方で、科研費改革2018による様々な改革が行われ、その実施に伴って不足していること、今後の効果検証に必要となることなどがあるのではないのでしょうか？

また、研究現場支援者（URAなど）は、科研費の申請支援を行ってきましたが、それら方法の是非について、振り返る機会が必要なのではないのでしょうか？

本セッションでは、科研費改革2018における様々な改革において、研究現場の協力・連動も必須である中、例えば学術システム研究センターと研究現場支援者（URAなど）との意見交換の場をつくるなど日本版FDPの在り方も含めて、日本の学術研究レベル向上に研究現場支援者（URAなど）がどのように貢献していけるか、参加者の皆さんと議論したいと考えています。

## オーガナイザー

田中有理: 東京都立大学・総合研究推進機構・URA



九州工業大学、中央大学にそれぞれURAとして勤務、2018年から東京都立大学（旧：首都大学東京）URA。国立大学、私立大学、公立大学のそれぞれの大学において求められるURAの機能を諸先輩方に学びつつ、日々スキルアップを目指しています。科研費の支援を通じた学術研究の向上について関心を持っています。科研費マニアの方もそうでない方も、気軽にご参加いただけるセッションを目指します。

## 講演者



永原 裕子:日本学術振興会・学術システム研究センター・副所長

科研費は日本の学術を支える根幹的な競争的研究資金制度であり、研究者個人の独自性に基づく創造的な研究の遂行のためにあるものです。しかし大学法人化による大学・個人評価、大学運営費交付金の漸減に伴い、科研費獲得が自己目的化し、科研費制度が歪んだものに変容しつつあります。科研費獲得のエッセンスは、研究者自身がいかに独創的かつ最先端を切り開く研究を追求するかに尽きます。支援もそれを後押しすることに尽きます。



高見沢 志郎:文部科学省・研究振興局学術研究助成課・企画室

学術研究の活性化に向けて、科研費改革の現在と未来を共有できればと思います。



岡野 恵子:横浜市立大学研究・産学連携推進センター  
URA部門・特任講師(URA)

明治大学研究・知財事務室で2011～2012年度科研申請書作成支援を担当後、2013年1月～2015年3月まで京都大学南西地区URAを経て2015年4月より横浜市立大学URA。



丸山 浩平:早稲田大学・研究戦略センター・教授

JUKI(株)にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から同大学研究戦略センター(URA組織)の立上げに参画し、その後も複数の大学でURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。日本の科研費システムが変化する中、あらためてURAが行うべき役割を考えます。



石田 貴美子:同志社大学・研究開発推進機構・リサーチ・アドミニストレーター

(株)村田製作所、シンガポール大手法律事務所を経て2006年私立大学で研究関連業務に従事。2013年度同志社大学にてURA組織の構築に寄与、研究プロジェクト構築、外部資金支援、研究戦略等に従事。日本の学術研究を支える科研費のシステムにURAが貢献できることを皆さんと教えたいとおもいます。